

平成22年度佐賀県CSO活動拠点整備事業費補助金実績報告書

様式第3号 (別紙1)

事業実績書

CSO活動支援オフィスの名称	CSO市民活動センターようこそ
CSO活動支援オフィスで実施した事業内容	
利用者数については別紙のとおり。	
利活用促進に向けた取り組みはつぎのとおり、	
●市民協働新聞(愛LOVEようこそ)の発行	
目的：CSOによるCSOのための新聞づくりにより、中間支援組織としての周知を図り、協働のまちづくりの拠点としての定着を図るため市内全戸(約15,000戸)に区長を通じ配布。	
成果物：別添のとおり	
●市報(おぎ)による活動の周知	
目的：まずは、利用してもらうことを第一に、「ようこそ」の取組み内容や場所があることを知らせ知名度(活動力)アップを図る。	
掲載内容：別添市報さくら(6/5号)、(11/5号)、(1/20号)参照	
本年度は、会員それぞれが協働を意識し、中間支援機能強化に力点を置き、自主事業及び支援事業に取り組みました。	
●協働理解促進議員研修開催事業(小城市協働支援事業補助金69,000円を活用、不足分は事業収益より拠出)	
目的：市民協働が地域の諸課題を解決するため民意を反映し、行動する最良の手段として今後の自治体運営に欠かさない手段として認識を深めていただき市民協働のまちづくりを推進する。	
内容：元議員で現在NPO活動を実践されている講師を招き、市民協働の基礎知識の習得とその必要性について講演いただく。(講師：藤岡喜美子氏)	
成果：開催写真、講義資料(別添)	
その他自主事業(本補助事業とは別に独自の活動)	
●お結びウオーキング	
目的：若い男女の昨今のふれあいの少ないことを考え、ウオーキングという手法を用いて、会話の場を作り、男女の相手を知る機会づくりなど。	
内容：男女間の縁結びとお結び(おにぎり)を作るという“お結び”をキーワードに健康ゲームを取り入れ、交流の機会を提供する、実施地域の裏路地散策・名所・旧跡めぐり(ウオーキング)を行った。他メニューとして、各地域で内容に趣向を凝らし実施。	
呼子(8月1日)、武雄(9月25日)、有田(11月23日)、1月鳥栖(中止)、小城(3月19日)県内計4カ所で行った。	
成果：①参加者数(呼子:15名<男5名、女10名>)(武雄:30名<男15名、女15名>)(有田:31名<男16名、女15名>)(小城:44名<男22名、女22名>)	
②カッパル成立(呼子0組)、(武雄5組<内1組結婚>)(有田2組)、(小城2組)	
③県内中間支援組織、サポーター同士の連携や各地域CSOにより組織された実行委員会設置により、“共に創る(参画)”ことができることや“共に達成感(喜び)”を感じ、協働事業のモデル事業となった。	
●生ゴミ減量&小城市花いっぱい作戦(セブンイレブン緑の基金助成金活用事業)	
目的：環境への負荷を軽減する生活をテーマにした活動・普及啓発を図る。	
内容：主催団体内各地区担当を決め、四季を通じ花植え(プランター)を実施。	
成果：①活動写真(別添)	
②維持管理に地域住民やCSOを巻き込み、市民活動の楽しさと大切さを感じてもらおうとができた。	

●PCネット小城の立ち上げ

目的：CSO市民活動センターようこそ会員のITに関するスキルアップと共にようこそ運営に係る中間支援機能の向上と市内CSOの活動基盤強化を図る。

内容：小城公民館2階のパソコン教室を効率的に活用した事業。ようこそ会員や市内CSOを対象とした自己所有するパソコンを持込、個人個人のペースに合わせた内容(知りたいことなど)での実施。NPO法人シニアネット佐賀の協力による実施。

成果：①別添開催写真<期日：11月17日(水)、場所：小城公民館2階、内容：年賀状づくり、参加者10名>

②ようこそ会員及びCSOのスキルアップを図ることができた。

個人個人のペースというニーズを的確に把握し、自主事業へ展開の可能性が見込める。

また、将来的には更なるようこそ会員のスキルアップを図り、公民館主催事業であるパソコン教室を受託できるよう取り組み。

●CSOフェスティバルin小城(市民と職員との協働に関する研修会)<市委託事業>

目的：まずはCSO相互を知ることと共に専門的分野で活動を行うNPOの活動内容を聞くことで、現活動に磨きをかけ、活動のステップアップを促し、連携を深める機会とする。

また、行政との出会いの場(市民と職員との合同研修会)を開催することで互いを知る機会を提供し、地域課題について共有しながら、協働について関心を高め、協働(事業)を見出す機会を提供する。

内容：<講演>古川康佐賀県知事 演題「新しい公共」における行政とCSOの役割

<活動発表>市内CSO6団体、行政関係3団体

<活動パネル展示>市内CSO12団体

成果：講演内容については、「分かりやすい言葉で市民、行政の協働のあり方を理解できた」など市民側から発信する協働推進の足掛かりとなる声を多数聞くことができた。市民及びCSOへの期待の大きさを実感されたようである。

市内CSO及び行政の活動について、相互間での取組を理解し、参加された市民も“協働”や“CSO”などについて言葉を知り、意味を知る機会が提供できたと思う。小城市の協働が大きく前に動いたと実感している。

受託者側も企画・立案能力も高まり、中間支援機能向上を図る一助になったものと思われる。「共に実施する楽しさ」を感じることができた。

●認定NPO法人イーパツからのリユースPC寄贈プログラムへの公募

目的：非営利団体等への情報化支援の一環で行われる事業で、寄贈PCを活用することで中間支援機能の充実を図ると共に中間支援組織運営者、市民及びCSOのPCIに対するスキルアップを図る。また、寄贈されたPCを必要なCSOへ配布(貸与)することで、市内CSOの基盤強化を図る。

内容：リユースノートPC(デスクトップ也可)の寄贈

成果：中間支援組織運営主体を中心としたパソコン教室の実施他、自主事業としてPCネット小城の効率的実施に向けた取組

整備場所

小城市小城町176番地20(小城市小城公民館内)

整備スケジュール

(別紙2)

平成22年度

収 支 決 算 書

(単位:円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)	備 考
佐賀県CSO活動拠点整備事業費補助金	1,200,000	1,200,000	0	
自己資金(預金利息、寄附金)	51,000	36,074	△ 14,926	会費 8,500円 預金利息 103円 その他 27,471円
事業収益金(家賃収入、使用料等)	300,000	210,000	△ 90,000	見守隊家賃15,000円×12月 会場提供30,000円
他の補助金、助成金	200,000	69,000	△ 131,000	
その他の収入				
合 計	1,751,000	1,515,074	△ 235,926	

(単位:円)

区分	予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)	内 訳			
				項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)
運 営 経 費	1,751,000	1,515,074	△ 235,926	人件費	624,000	694,000	70,000
				報償費	32,000	91,180	59,180
				旅費	85,000	0	△ 85,000
				光熱費	28,000	27,720	△ 280
				役務費	182,000	180,600	△ 1,400
				委託料	79,000	0	△ 79,000
				印刷製本費	497,000	202,944	△ 294,056
消耗品費	224,000	318,630	94,630				
合 計	1,751,000	1,515,074	△ 235,926				

支 出